

団体名	一般財団法人東京マラソン財団				
代表者	理事長 伊藤 静夫			所管局	生活文化スポーツ局
所在地	東京都江東区有明3-7-26 有明フロンティアビルB棟8階			電話番号	03-5500-6677
基本財産 /資本金	240百万円	都出資等割合 /都持株比率	90.9%	設立 年月日	平成22年6月30日
設立 目的	東京マラソンを安定的に運営し、国内外から多くのランナーが集う世界最高水準の大会へと発展させるとともに、ランニングスポーツの普及振興を通じて、都民の健康増進と豊かな都民生活の形成に寄与することを目的とする。				
主 な 事 業	(1) 東京マラソンの企画運営に関する事業 (2) 東京マラソンの魅力を向上するための事業 (3) ランニングスポーツの普及振興に関する事業 (4) その他この法人の設立目的を達成するための事業				
組 織	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度比
	常勤役員数	1人	2人	2人	100.0%
	常勤職員数	38人	39人	39人	100.0%
	都派遣職員数	4人	4人	4人	100.0%
	都退職者数	0人	0人	0人	-

区分		2020大会年度 (1)	2021大会年度 (2)	2022大会年度 (3)	対前大会 差引増減額	対前大会比 (%)	主な増減理由
正味財産増減計	当期経常増減額	171,336	151,872	665,276	513,404	-	(経常収益) ・前大会年度から延期となった東京マラソン2021の開催に伴う協賛金、参加料等の増のため。 (経常費用) ・前大会年度から延期となった東京マラソン2021の開催に伴う大会運営経費の増のため。 (経常外収益) ・基本財産取崩しを実施したため。 (経常外費用) ・ジョグボート有明等原状回復費用が発生したため。
	経常収益	4,132,773	880,614	3,188,394	2,307,780	362.1%	
	基本財産運用益	164	74	49	25	66.2%	
	特定資産運用益	1	1	0	1	-	
	事業収益	3,822,828	839,833	2,771,716	1,931,883	330.0%	
	その他収益	309,781	40,706	416,629	375,923	1023.5%	
	経常費用	3,961,438	1,032,486	3,853,670	2,821,184	373.2%	
	事業費	3,768,436	872,230	3,714,661	2,842,431	425.9%	
	管理費	193,001	160,256	139,010	21,246	86.7%	
	当期経常外増減額	993	69,730	563,937	633,667	-	
	経常外収益	-	-	640,000	640,000	-	
	経常外費用	993	69,730	76,063	6,333	109.1%	
	法人税等	79,902	69	68	1	98.6%	
当期一般正味財産増減額	90,441	221,670	101,407	120,263	-		
当期指定正味財産増減額	63,890	4,396	680,061	675,665	-		
正味財産期末残高	1,593,854	1,367,787	586,319	781,468	42.9%		
貸借対照表	資産合計	2,314,283	2,034,802	722,492	1,312,310	35.5%	(流動資産) ・東京マラソン2021の延期及び規模縮小、東京マラソン2022の中止による収益の減少に伴う現金預金の減のため。 (固定資産) ・基本財産取崩しによる減のため。 (流動負債) ・前大会年度に入金された東京マラソン2021参加料等前受金の減のため。
	流動資産	1,104,367	904,310	333,190	571,120	36.8%	
	固定資産	1,209,916	1,130,492	389,301	741,191	34.4%	
	基本財産	880,000	880,000	240,000	640,000	27.3%	
	負債合計	720,430	667,016	136,172	530,844	20.4%	
	流動負債	720,430	667,016	136,172	530,844	20.4%	
	固定負債	-	-	-	0	-	
	正味財産合計	1,593,854	1,367,787	586,319	781,468	42.9%	
指定正味財産	962,243	957,847	277,786	680,061	29.0%		
一般正味財産	631,610	409,940	308,533	101,407	75.3%		

1 令和元年7月から令和2年6月まで

2 令和2年7月から令和3年6月まで

3 令和3年7月から令和4年6月まで

戦略1 長期的な経営戦略に基づく事業展開及び効果検証

<p>3年後 (2023年度)の 到達目標</p>	<p>東京マラソンの更なる発展やランニングスポーツ振興、ボランティアやチャリティ事業が一層拡充され、戦略的・効果的に財団事業が推進されている。</p> <p>財団の安定的な運営の確保に向け、収益構造の多角化や事業費の抑制が図られている。</p>	<p>実績 (2022年度末時点)及 び要因分析</p>	<p>コロナ禍においても工夫しながら事業を実施し、ランニングスポーツの振興や東京レガシーハーフマラソン(TLH)の創設、ボランティア、チャリティ事業の実施など、計画に即して運営してきた。</p> <p>専門家の意見等を踏まえ、万全な感染症対策実施のもと、TLH2022や東京マラソン2023を開催した。特に東京マラソン2023では、4年ぶりに従来の定員38,000人での開催を実現した。</p> <p>各大会について引き続き事業費の精査を行うとともに、バーチャルマラソンなど新たに継続的な収益を確保できる事業を実施するなど、財団の安定的な確保に努めている。</p>
-----------------------------------	--	--------------------------------------	--

個別取組事項	到達目標	2022年度計画	2022年度実績	要因分析	対応方針
<p>計画に基づく事業の実施及び検証</p>	<p>目標</p>	<p>前年の実績や検証等を踏まえ、引続き計画を推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても工夫して事業を実施するとともに、ランニングスポーツの振興やTLHの創設、従来定員での東京マラソン2023の開催、ボランティア、チャリティ事業など、計画に即した運営を実施した。 ・ONE TOKYOイベントなど、年間を通じて効率的、効果的なサービス提供を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・万全の感染症対策実施により、コロナ禍においても安全安心な大会運営体制を整えたことで、TLH創設や東京マラソンの従来定員での実施につながった。 ・バーチャルマラソンなど、リアルイベント以外でもランニングを楽しむ環境を新たに提供した。 ・年間を通じたイベントは、参加状況等を随時検証しながら事業を進めた。 	<p>これまでの実績や検証等を踏まえながら、引き続き各大会を確実に開催し、収益の確保に努めるとともに、バーチャルマラソンなど新しい事業も組み合わせ、収益構造の多角化を図る。</p>

<p>団体自己評価</p>	<p>コロナ禍においても万全の感染対策を行うことで、TLHの創設や東京マラソン2023の38,000人定員での開催、バーチャルマラソンなど新たにランニングを楽しむ機会の提供、ボランティアやチャリティ事業の着実な実施を実現するなど、工夫を施しながら計画の趣旨に沿って着実に取組を進めてきた。引き続きこれまでの実績や検証等を踏まえながら、計画の実現に向けた取組を進めていく。</p>
---------------	---

戦略2 継続した収益の確保

<p>3年後 (2023年度)の 到達目標</p>	<p>経常収益 38億円 2021大会年度予算並み</p> <p>各事業セグメントにおける独立採算を目指した事業展開により、単年度における収支均衡を維持する</p>	<p>実績 (2022年度末時点)及 び要因分析</p>	<p>2022大会年度 経常収益 約31.9億円 協賛金収益は、初開催の東京レガシーハーフマラソン (TLH) 2022で4.8億円、東京マラソン2023で27.7億円となった。 また、バーチャルマラソン等新しい事業においても一定の収入が得られ、一つの収入源として育っている。 財団の豊富なノウハウを活かし、ボランティア受託は13件となっており、引き続き受託を増やせるよう努める。 競技運営は契約方法の見直し等を通じて、経費節減、適正規模での実施を目指した。</p>
-----------------------------------	--	--------------------------------------	---

個別取組事項	到達目標	2022年度計画	2022年度実績	要因分析	対応方針
協賛金収益 (協賛物品含む)の維持	目標	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソン (協賛金等25.0億円)に加え、東京レガシーハーフマラソンの協賛金を確実に獲得していく 	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソン2023 協賛金収益 24.5億円 (予算23.4億) 協賛物品収益 3.2億円 (予算3.5億) 合計 27.7億円 TLH2022 協賛金収益 4.0億円 (予算4.1億) 協賛物品収益 0.8億円 (予算0.8億) 合計 4.8億円 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で各企業とも厳しい経営環境の中、協賛金確保の取組を強化した結果、新規に6社確保した。 東京マラソンのパートナーとの関係活用に加え、企業の特性に応じた具体的な提案を行うことで、TLHにおける協賛金獲得につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き両大会において協賛金等の獲得を目指していく。
バーチャルマラソン等、新しい収益事業	目標	<ul style="list-style-type: none"> 前年実績等を踏まえ、更なる事業の検討等を進める 収入5,000万円 	<p>バーチャルマラソン実施17件</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加延べ人数27,915名 収入約6,100万円 	<ul style="list-style-type: none"> 10kmやハーフから100kmまで様々な距離のイベントを複数回実施するほか、参加者に対して抽選で東京マラソンやTLH、ワールドマラソンメジャーズの出走権を付与するなど、様々な工夫を凝らすことで、国内のみならず海外からも多くの参加者獲得につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> リアルイベントが戻ってくる中でも、バーチャルに対するニーズがあることから、バーチャル独自のコンテンツを提供するなど、引き続き事業を継続していく。
ボランティア受託事業収益	目標	<ul style="list-style-type: none"> 前年実績や委託側のニーズ等を踏まえサービスを向上し、多くの受託を得られるようにする 東京2020大会後も受託規模を維持 (15件) 	<ul style="list-style-type: none"> 13件 (有償13件 無償0件) 収入約500万円 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における活動機会の減少等があったものの、積極的な周知を行うことで、高校生へのスポーツボランティア研修や、しまだ大井川マラソン (静岡県)への協力など、新規の案件を受託できた。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの実績や活動ノウハウを生かし、引き続き受託確保や収入の維持に努める。
競技運営経費の精査	目標	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の動向や2021大会の実績等を踏まえて見直しを行い、経費の節減を図る 2022年から開始する東京レガシーハーフマラソンの競技運営経費についても精査し、適正な経費で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 大会運営に係る各種契約や実施内容について見直しを行うことで経費節減につなげ、適正経費での実施を目指した。 TLH2022と東京マラソン2023の規模に応じた検査や結果通知の見直し、医療救護体制の確保を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 物価等高騰はあるものの、早期にワーキンググループを立ち上げて効率的な運営計画を立案するほか、大会プログラムなど制作物の見直しや、警備など運営面での契約の見直しを行うことで、経費節減につなげることができた。 新型コロナ感染症対策については、専門家のアドバイスを取り入れ検査機関とも連携して、効率的かつ効果的な運用を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 資材費や人件費の高騰、円安の影響が生じているものの、これまでの実績等を踏まえて引き続き見直しを行い、経費の節減、適正化を図る。

<p>団体自己評価</p>	<p>コロナ禍で各企業とも厳しい経営環境にある中、取組を強化することで東京マラソン、TLH両大会において着実に協賛金を獲得した。また、バーチャルマラソンなど、新たに継続的な収益を獲得できる事業を実施するなど、収益の維持・向上を図ることができた。収益構造として東京マラソン、TLHの両大会が大部分を占めており、引き続き協賛金収益の維持・確保に努める一方で、新たな収益事業を含め、各事業セグメントにおける独立採算を目指すとともに、単年度における収支均衡を維持していく。また、競技運営経費については、資材費や人件費の高騰、円安の影響などを受けつつも、引き続き精査を行っていく。</p>
---------------	---

戦略3 財団事業の拡充、多様化

<p>3年後 (2023年度)の 到達目標</p>	<p>ONE TOKYO会員 68万人 2020年7月1日時点619,632人を10%増加</p> <p>ひとびとが健康づくりに取り組む社会の実現に向け、積極的に取り組んでいる</p> <p>VOLUNTAINER会員 3万4千人 東京2020大会後も会員規模を維持</p> <p>東京2020大会レガシー創出</p>	<p>実績 (2022年度末時点)及 び要因分析</p>	<p>新型コロナの影響により、ONE TOKYO会員数は目標に届いていないものの、新たに走力の向上を目指す会員制プログラムを実施するなど、サービスの充実を図った。(会員数:64.5万人)</p> <p>ひとびとが健康づくりに取り組む社会の実現に向け、地域陸協や地方自治体とのコラボイベントを34件開催した。</p> <p>VOLUNTAINERの会員数については、2022年6月時点で38,872名を対象に休眠会員の洗い出しを行い、アクティブな会員のみを残したことで24,984名となっている。こうした会員を有効に活用することで、各大会の円滑な運営につなげることができた。</p> <p>東京2020大会のレガシー創出のイベントとして、新たに東京レガシーハーフマラソン(TLH)を開催した。</p>
-----------------------------------	---	--------------------------------------	---

個別取組事項	到達目標	2022年度計画	2022年度実績	要因分析	対応方針
ONE TOKYO会員向けサービスの充実	目標	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソンとの連携強化や、有料・無料会員それぞれへのサービスコンテンツの拡充を図るとともに、東京レガシーハーフマラソンとの連携を図っていく ONE TOKYO会員 66万人 	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソンやTLH、ワールドマラソンメジャーズ出走権を付与するイベントをはじめ、様々な会員向けサービスを提供した。 無料会員 62.8万人 プレミアム会員 1.65万人 新たに走力の向上を目指す会員制プログラム「TEAM ONE TOKYO」を開始した。 会員数 2千人 	<ul style="list-style-type: none"> 各出走権の抽選付与等、リアル大会の実施を印象付ける施策を実施してきた。 加えて初心者も参加しやすい講習会やギネス世界記録挑戦イベント、メールマガジン配信、新たな登録制プログラムの実施など趣向を凝らすことで、会員の獲得・維持に努めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き誰でも参加しやすいイベントの実施やメルマガによる情報発信など、会員向けサービスを拡充していく。 有料会員に対しても、サービス拡充や、個々の目標達成のサポートが明確になるコンテンツを打ち出していく。
運動習慣継続に向けた取組の推進	目標	<ul style="list-style-type: none"> 前年実績を踏まえた環境・機会の創出に努め、気軽に運動できる場や機会を提供するなど、継続して運動習慣促進・継続に向けた取組を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技協会とのコラボイベント開催 26件 参加者計約1,400人 地方自治体とのコラボイベント開催 8件 参加者計約500人 	<ul style="list-style-type: none"> 地域陸協や地方自治体にも積極的に情報提供を行うなど、連携を密に図ることで、地域特性や集まる人の目的に合ったイベントの企画や開催支援を行い、あらゆる人が気軽に楽しみ、健康増進につなげることができる機会の更なる創出に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの実績を踏まえ、引き続き運動環境、機会の創出に努めるとともに、財団自身の事業としても新たに誰でも気軽に参加できるランニングイベントの実施を検討するなど、継続して運動習慣促進、継続に向けた取組を推進する。
VOLUNTAINER活動の活性化	目標	<ul style="list-style-type: none"> 前年実績等を踏まえ、他大会への運営協力やカリキュラム・受講機会等を提供するなど、VOLUNTAINERの活性化を図っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ランニングイベントや他大会でのボランティア活動機会を提供 VOLUNTAINER会員を対象としたスキルアップ講習会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に活動している会員約25,000人に対して、ホームページやメルマガ、民間企業協力下でのプログラム提供などを通じて、積極的に活動機会を提供してきた。 バリアフリーや感染症対策など専門的な講習会も実施することで、会員の知識を深め、意欲の向上や活動の活性化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで実績等を踏まえ、他大会等への運営協力やカリキュラム・受講機会等を提供するなど、VOLUNTAINERの活性化と活動の場の提供を図っていく。
東京2020大会のレガシーの創出	目標	<ul style="list-style-type: none"> 東京都と連携し、第1回東京レガシーハーフマラソンをセレブレーションマラソンと位置付けて、確実に開催 	<ul style="list-style-type: none"> 国立競技場を発着とし、東京2020大会のオリンピックマラソンのコースを活用したTLHを新たに開催した。 出走者数14,256人、完走者数13,257人 	<p>コロナ禍においても感染症対策を万全に行うとともに、都や100とも連携を密に図り、大会や関連イベントの実現につなげた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> TLHについて、東京2020大会のレガシーを継承し、関連イベントも含め、障がいの有無等にかかわらず、誰でもチャレンジできる大会として、継続開催していく。

<p>団体自己評価</p>	<p>コロナ禍で事業拡大が困難な状況もあったが、TLHの開催に加え、新たな登録制プログラムやバーチャルイベント、陸上競技協会や地方自治体とのコラボイベント実施など、財団事業の充実を図ってきた。</p> <p>また、民間企業協力のもとボランティアの活動機会提供やスキルアップ講習の実施など、VOLUNTAINER活動の活性化にも取り組んできた。</p> <p>引き続き各事業セグメントに基づき多角的な事業展開を進めていく。</p>
---------------	--

戦略4 東京マラソンチャリティ等の更なる充実

3年後 (2023年度)の 到達目標	チャリティ寄付金額 8億円 2020大会年度約7.2億円を10%増加 東京マラソンを通じた持続可能な大会運営が一層、推進されている	実績 (2022年度末時点)及び 要因分析	過去の寄付者が権利移行があったことや、東京レガシーハーフマラソン(TLH)では海外募集を見送ったため、寄付金額は目標に届かなかった。(チャリティ寄付金額3.91億円) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、スポーツレガシー事業を着実に実施している。 持続可能な大会運営については、協賛企業との連携によるアップサイクルの取組や水循環型手洗いスタンドの設置など、様々な取組を実施している。
--------------------------	---	-----------------------------	--

個別取組事項	到達目標	2022年度計画	2022年度実績	要因分析	対応方針
チャリティ寄付金額の増加に向けた仕組みの工夫	目標	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソンにおける実績等を踏まえ、寄付金額の増加を目指す。 7.6億円 	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソン2023チャリティ 3.57億円 TLH2022チャリティ 0.34億円 合計 3.91億円 	<ul style="list-style-type: none"> 寄付先団体と連携し、積極的にPRを行うことにより、合計で3.91億円の寄付金を集めることができた。 東京マラソン2023ではチャリティランナー5,559人中、権利移行者が3,261人あり、TLHは海外募集の見合わせも影響して、目標金額の50%程度となった。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの実績を踏まえ、チャリティの実施方法を工夫し、寄付金額の増加を目指す。 寄付先団体の活動を様々な場面で露出し、寄付者の動機付けを促す。
寄付先団体数の増加	目標	<ul style="list-style-type: none"> 寄付者数等を踏まえ、必要に応じた寄付先団体の追加募集により、多様性と寄付事業の裾野を広げるなど、拡充を図る 42団体 	<ul style="list-style-type: none"> TLH2022 22団体(22事業) TM2023 33団体(34事業) 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においては、寄付先団体の新規募集を行うことができなかった。 なお、2023年度は新たに寄付先団体を募集、選定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄付者数等を踏まえ、必要に応じた寄付先団体の追加募集により、多様性と寄付事業の裾野を広げるなど、拡充を図る。
スポーツレガシー事業の充実	目標	<ul style="list-style-type: none"> 前年実績等を踏まえ、引き続き子どものスポーツ及びランニング、障害者スポーツの普及啓発等を推進していく 寄付金額の増加に合わせた事業の多様化・充実を図る 	従前から行っている事業に加え、以下の事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティアクションプログラム(パラ陸上教室、バリアフリー事業) 大会継続支援(東京選手権、北沢マイル) 	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020パラリンピックを契機に、スポーツをする・見る・支える全ての人々へ、バリアフリー実現に向けたきっかけを与えることを目指し、新たにダイバーシティアクションプログラムを開始するなど、事業の多様化を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> いずれも継続的に実施していく事業として評価は高いことから、前年実績等を踏まえ、引き続き子供のスポーツ及びランニング、障害者スポーツの普及啓発等を推進していく。 寄付金額の増加に合わせた事業の多様化・充実を図る。
持続可能な大会運営	目標	<ul style="list-style-type: none"> 前年実績等を踏まえ、持続可能な大会運営に向けた取組の継続・見直しを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソンにおいて、協賛企業と協働したアップサイクルの取組や水循環型手洗いスタンドの設置等の取組を実施 TLHにおいて、年号表記の無いデザインのスタッフウェアを採用 チャリティバーチャルランを実施、グリーンマイルレージプログラムと連携 	<ul style="list-style-type: none"> 協賛企業との緊密な関係構築により、企業の先進的な取組を大会運営に反映させることで、持続可能な取組を実現することができた。 チャリティバーチャルランにはVOLUNTA INER会員のエントリーが多く、社会貢献や学びへの意欲の高さがうかがえた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き協賛企業との連携も含め、新たな取組の可能性を模索していく。 前年実績等を踏まえ、持続可能な大会運営に向けた取組の継続、見直しを行う。

団体自己評価	寄付先団体とも密に連携し、呼びかけを行うことで、新たにTLHでもチャリティ事業を実施し、寄付金を獲得するなど、寄付文化の醸成に寄与してきた。また、コロナ禍の影響を受けながらも、スポーツレガシー事業を着実に実施し、社会貢献を進めてきた。加えて、協賛企業やボランティアなどの協力も得ながら、持続可能な大会運営への取組も実施することができた。引き続き各取組を推進し、日本の寄付文化の醸成や財団としての社会貢献、持続可能な大会運営の実現を目指していく。
--------	--

共通戦略

取組事項	2022年度計画	2022年度実績	要因分析	対応方針
手続のデジタル化	都民・事業者等を対象とした手続については、契約手続関係等を除き、既にデジタル化済みであるが、更なる利便性・効率性向上に向け、2023年度までの取組を検討	規程等に基づき対応可能な手続については、全件規程等を改正済み	必要な対応を実施済み	引き続き利便性・効率性向上に向けてデジタル手続を実施していく。
はんこレス	対象となる規程等を改正済 都の規程等を踏まえ対応が必要な手続については、押印廃止を都と連携して進めていく。	対象となる規程等を改正済み	必要な対応を実施済み	引き続きはんこレスの取組を進めていく。
FAXレス	年間を通じて、FAXの送信数・受信数を98%削減(例外除く)	令和3年度にFAX送信・受信共に電子化済みのため100%削減している。	必要な対応を実施済み	引き続きFAXレスの取組を進めていく。
ペーパーレス	コピー用紙の使用量を引き続き削減し、2019年度同月比60%削減(例外除く)	2022年度目標値192千枚に対して322千枚を使用している	今年度より、毎年10月に新規事業として東京レガシーハーフマラソンを開催している。財団にとっては東京マラソンに次ぐ規模の事業であり、警視庁その他関係者への説明の際に紙での資料持ち込みが必須となっている。そのため、大幅に用紙の使用枚数が増加した。引き続き、印刷は必要最低限の枚数とすることや両面印刷を行うことについて職員に呼び掛けを行っていく。	引き続き必要最低限の印刷や両面印刷などの取組を行うほか、タブレット端末の活用を行うなどにより、コピー用紙使用量を削減していく。
キャッシュレス	現状、都民利用施設の運営は行っていないが、新規に都民利用施設を運営する場合には、特段の理由がある場合を除きキャッシュレス対応とする。	現状、都民利用施設の運営は行っていない。	必要な対応を実施済み	今後新規に都民利用施設を運営する場合には、特段の理由がある場合を除きキャッシュレス対応とする。
タッチレス	マラソンイベントや対面指導・説明が必要なイベント・説明会等を除き、オンラインで実施する。	マラソン大会や指導等、対面でのイベントをいづつ、対面の必要性がないイベント等については適宜オンライン形式で実施している	必要な対応を実施済み	対面でのイベントをいづつ、引き続きオンライン形式でのイベント・説明会等も継続していく。
テレワーク	新型コロナウイルス感染拡大時等における都・国等からのテレワーク実施要請へ、都庁グループの一員として、適切に対応する。	大会に向けた準備など必要な業務をいづつ、各職員がテレワークを実施(月8日上限)するほか、可能なものはオンライン形式での打合せを実施している。	必要な対応を実施済み	感染症対策に加え、ライフワークバランスの観点から、引き続きテレワークを導入していく。
団体自己評価	該当する内容について、必要な取組を進めてきた。引き続き共通戦略の内容を踏まえ、取組を進めていく。			

所管局所見

・戦略1では、長期的な視点に立った戦略的・効果的な団体運営を行うため、当該団体が公表している長期経営計画「アクションプラン Beyond2020」に基づき事業展開を図っている。コロナ禍の影響がある中、東京マラソンを4年ぶりに従来定員で実施、東京レガシーハーフマラソン(TLH)を創設・実施、バーチャルマラソンなど身近でランニングを楽しむ機会を提供するなど、ランニングスポーツの普及・振興に取り組み、社会情勢の変化を踏まえて事業を推進している。

・戦略2では、コロナの影響等による経済状況の変化により、企業からの協賛金等の安定した収入確保が難しい状況ではあるが、東京マラソン2023及びTLHでは取組を強化し協賛金の確保に努めた。また、バーチャルマラソンの参加者に対して各大会への出走権を付与するなど工夫を凝らして海外からの参加者を獲得し、時代のニーズに即した収益事業を実施した。さらには、競技運営経費の精査を行い、パートナーセールスを強化するなど、自己収益の継続的な確保に努めている。

・戦略3では、財団事業の拡充・多様化を進めるため、東京マラソンのほか、東京2020大会パラリンピックのマラソンコースを活用したTLHの開催、当該団体が運営する会員制サービスONE TOKYOプログラムの充実、陸上競技協会や地方自治体とのコラボイベントの実施など、多角的な事業に取り組んでいる。

・戦略4では、チャリティ事業の充実のため、東京マラソンのみならず、新たにTLHで実施し、マラソンを通じた寄付文化の醸成を進めたほか、スポーツレガシー事業としてパラリンピックを契機に新たにダイバーシティアクションプログラムを開始するなど社会貢献に取り組んでいる。

・共通戦略は、手続のデジタル化・5つのレスの推進・テレワークについて、設定目標を概ね達成し、更なる取組を進めている。

コロナの影響を受けながらも、東京マラソン2023の従来定員での実施やレガシーハーフマラソンの創設などランニングイベントに着実に取り組み、ダイバーシティアクションプログラムの開始など社会貢献に取り組んでいることについて評価する。

コロナも収束する中で、世界水準のランニングイベントとしての東京マラソン等を通じたランニングスポーツの普及振興により、都民の健康増進と豊かな生活の形成に寄与することを期待する。

総務局所見

経営改革プランに掲げた目標のうち、戦略2「継続した収益の確保」について、東京マラソンにおける協賛金等の収益やバーチャルマラソンの収入が目標を上回る金額を獲得するなど、取組を大きく前進させている。一方、戦略4「東京マラソンチャリティ等の更なる充実」について、チャリティ事業に係る寄付金については目標金額を達成することができなかったものの、東京2020大会パラリンピックを契機に、スポーツをする・見る・支える全ての人々へ、バリアフリー実現に向けたきっかけを与えることを目指し、新たにダイバーシティアクションプログラムを開始するなど、スポーツレガシー事業の充実に取り組んでいる。また、共通戦略による「5つのレス」等についても、取組を着実に進めている。

引き続き、各種事業を積極的に推進していくとともに、収支改善に努めつつ、都民の健康増進と豊かな生活の形成に一層貢献していくことを期待する。